

告 辞

春の風に新緑の木々がそよぐ佳き日に、名誉教授、同窓会、後援財団のご来賓をはじめ、ご家族・保護者の皆様方多数のご臨席のもと、平成 28（2016）年度の琉球大学の学部卒業式並びに大学院修了式を厳かに挙行できますことは、私どもの大きな慶びとするところでございます。

琉球大学を代表して、学部卒業生 1,483 名、大学院修了生 255 名、計 1,738 名の諸君の卒業並びに修了を心から祝福申し上げます。とりわけ、2011 年 3 月の東日本大震災と 2016 年 4 月の熊本地震で被災された諸君には、艱難辛苦を乗り越えて、本日の佳き日を迎えることができたことをともに慶び、この卒業式・修了式を人生の大きなステップ・ストーンにしてもらいたいと強く念じております。また、母国を離れて異なる生活環境のもとで奮闘努力した、留学生諸君に敬意を表します。さらに、卒業生・修了生を今日まで経済的・精神的に支えてこられたご家族の皆様に対して、これまでのご労苦に対する深甚なるねぎらいの念と心からのお祝いを申し上げます。

本日、卒業生・修了生諸君に授与した学士、修士及び博士の学位は、国際的な通用性をもつ質の高い教育によって、豊かな教養を身につけた幅広い職業人として、さらには優れた専門性を身につけた高度専門職業人並びに研究者として養成された者であることの証であり、琉球大学が自信を持ってそのことを保証する学位です。そして、この学位授与には、大学での学びを通して総合的な知性としての叡智を磨き上げ、物事の本質を見抜く人間へと成長してもらいたいという、ご家族や私どもの願いが込められていることを心に留めて頂きたいと思っております。これまでの学びや経験を通して、自分自身がどのような成長を遂げることができたか、是非いま一度、振り返ってみてください。

諸君がこれから踏み出していく社会では、経済を中心とするグローバル化や少子高齢化、AI（人工知能）などの急速な情報化、労働市場や産業・就業構造の流動化などが進み、将来予測がますます困難になっていくことでしょう。諸君には、本学で培ってきた深い学識と幅広い人間力をベースにして、地域社会及び国際社会で活躍するグローバル・リーダーとして、あるいは研究者として、「生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最適な解を導くことができる能力」を発揮し、経済社会及び学術研究の発展に大きく寄与し貢献することが待望されています。大いなるご活躍を期待いたします。

ところで、2017年に入ってから大きな話題の一つは、共和党のドナルド・トランプ氏が第45代米国大統領に就任したことです。トランプ氏が大統領選を制した要因として様々な分析がなされていますが、その一つは、グローバル化が進んだ結果、米国内での雇用機会がなくなり、所得階層の底辺に追いやられた白人中間層の不満や怒りを集めるのに成功したからだといわれています。

そもそも、福祉国家主義を否定し、小さな政府をスローガンにして労働市場を含む各種規制緩和、社会保障費の削減、減税など、1980年代に新自由主義的な経済政策を行ったのが、同じ共和党の第40代大統領ロナルド・レーガンでした。いわゆるレーガノミクスによって、アメリカの企業は多国籍企業となって、賃金の安い途上国へ生産拠点を移すと同時に、グローバル資本が国境を超えて自由に移動する金融資本主義が定着し、米国内の労働者として、世界中から低賃金の移民がアメリカン・ドリームを求めて米国へ押し寄せたのです。

その結果、米国の中間層は仕事にありつけず、貧富の格差拡大と固定化が進み、既得権をもつ階層に対する不満や不信が鬱積することになりました。共和党のレーガン氏以降の新自由主義的政策による矛盾が噴出したことによって、同じ共和党のトランプ氏が、政治家から国民へ政権を取り戻す、と言って大統領になったことは、歴史の皮肉といえます。

この経済的新自由主義は、貧困を生み出しましたが、海の向こうだけの話ではなく、日本や沖縄においてもはびこっています。バブル崩壊後の1990年代に入ってから行われた民営化や日本型労働慣行の廃止と労働者派遣法の改正などによって、日本でも格差社会が顕在化しました。非正規労働者比率の上昇、ニートやホームレス、ワーキングプア、貧困世帯の増加などの負の側面が現れました。

沖縄においても、昨今、子どもの貧困問題が急浮上していますが、もともと親世代の経済格差が子どもにまで及び、〔経済格差→教育格差→経済格差→教育格差→…〕という貧困の悪循環として表面化したのです。この負の連鎖を打ち切り、心豊かで健全な沖縄の経済社会を実現しなければなりません。

翻って、中南米の国々は、いち早く1980年代に新自由主義的市場経済に移行しましたが、健康、教育、エネルギーなどあらゆる分野にまで民営化や市場の自由化が進み、国内資本が米国資本に買収される一方、対外債務が積み上がり、国内経済や人々の暮らしは苦境に陥りました。

そのような中で出てきた政治家の一人が、ウルグアイ東方共和国の第40代大統領を務めたホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノさん（81歳）です。ホセ・ムヒカさんは、平等と公正を掲げ、社会民主主義的な政策を展開して大統領を務めた人です。ムヒカさんは2016年4月に来日しましたので、ご存じの方も多いかと思いますが、ネクタイをしない「世界でいちばん貧しい大統領」ということで有名です。私は、2012年6月に開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」で、行き過ぎた経済開発と浪費型消費経済に警鐘を鳴らすスピーチを行った人ということでホセ・ムヒカさんを知りました。

彼は、2010年3月から2015年2月までの大統領在任中は、大統領官邸に住まず、首都の郊外にある質素な自宅に住み続けたそうです。そして、給与の90%を慈善事業に寄付したと言われています。ですから、ムヒカさんは世界一貧しい大統領として世界の注目を浴びたのです。しかし、ムヒカさん本人は自分では貧乏だとは思っておらず、「貧しい人とは、無限の欲があつて、いくらあつても満足しない人のことだ。でも、私は少しのもので満足して生きている。」と言いつつ切っています。

ムヒカさんは、来日記念特別講演を東京外国語大学で行いました。彼の講演の中からいくつか引用して、卒業・修了する諸君への餞の言葉といたします。（*）

- もっとも重要な価値は「生きていること」です。そして、生きているということは、たくさんのチャンスが与えられているということなのです。
- あなたが何かを買うとき、お金で買っているわけではありません。そのお金を稼ぐために費やした時間で買っているのです。買うことだけを楽しみにして時間を浪費したあげく、私のような老人になって残ったものは、ため込んできたガラクタですか？
- みんな私のことを貧しいと言いますが、私は貧しいわけではなく質素なだけなのです。私は、私にとって重要なものさえあれば十分なのです。なぜなら、質素であるほうが本当にしたいことをする時間を持てるからです。
- 私たちはもっと人生の時間を尊重しないといけないのです。だって時間は取り戻せないし、人生は戻ってこないのです。

ムヒカさんが言うように、自分自身の人生の時間を大切にしながら、自らを幸せにする大事な何かを探すために、夢を持ってしっかり生きることが大切です。そこから、他の人々を幸せにすることも考えて下さい。諸君の輝かしい未来に幸多かれとお祈りし、告辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成 29 年 3 月 24 日
国立大学法人琉球大学
学長 大城 肇

(*) くさば よしみ『ホセ・ムヒカと過ごした 8 日間 世界でいちばん貧しい大統領が見た日本』汐文社、2017 年、62～79 頁より抜粋。